

原因・理由表現 辞典項目記述

凡 例

1. 本編の構成と内容

【見出し語】

○代表形

当該の文法形式と由来を同じくすると考えられる変異形のうちの代表形を見出し語として立てる。見出し語の配列は、五十音順とする。

○変異形

共通調査、『方言文法全国地図』（以下 GAJ）、その他の方言文献資料から採集された関連形式を列挙する（代表形として立てた形式は除く）。配列は、GAJ に掲載されているものは GAJ の凡例掲載順に従い、それ以外の形式は近似の形式の近くに配置する。もとの形に近いもの、変化の進んだ形、混交形の順で配列する。

【文法機能】

品詞（助詞、助動詞、接辞）と文法機能を【 】内に示す。

【分布】

○分布図

GAJ の関連図をもとに、当該形式の分布領域の略図を作成する。複数の分布図の総合図を作成する場合もある（GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」、同 34 図「だから言ったじゃないか」、同 37 図「子どもなでわからなかった」をもとに、3 枚の分布図で「カラ」が回答された地点を総合的にプロットした図など）。GAJ に当該形式が回答された関連図が存在しない場合はその旨を記す。GAJ 以外の関連図から作成した分布図を掲載する場合もある。

○分布の解説

見出し語（代表形・変異形）の大まかな地理的分布について概説する。

【意味用法】

基本的な意味用法として、文法機能と品詞、共通語訳をあげる。また、共通調査項目で設定した意味用法のうち、どの用法をカバーするかを記述する。地域差、意味領域の拡張現象などがあれば指摘する。

【接続】

接続についての情報を挙げる。前接する要素の活用形、推量形や丁寧形への後接が可能か、体言に直接つくかなどについて、共通調査をふまえて記述する。後接する要素として、共起しやすい特定の間投助詞、終助詞などがあれば、あわせて記述する。地域差、併用状況など注意すべきことがあれば指摘する。

【語誌】

当該形式の成立、語史、共通語形との相違などの用法上の特徴を記す。記述に参照した文献は、稿末に《参考文献》としてあげる。

【報告地点】

以下の〔共通調査〕〔方言文献資料〕の記述で取り上げる地点を「報告地点」として略図付きで示す。①②などの丸囲み数字は共通調査地点、アルファベットは方言文献資料で用例が見られる地点である。

【共通調査】

《概説》に掲載した共通調査項目について、現地調査を行った。その報告に基づき記述をする。調査概要については、2を参照のこと。

特記事項、注意事項などについては、《補説》でまとめて解説する。

【記述の枠組みと代表例文】

原因・理由表現の記述にあたり、用法の下位区分と代表例文は、共通調査項目に従って、以下のようにした（代表例文に付した数字は共通調査項目番号）。代表例文で適切な回答が得られていない場合は、共通調査項目の別の例文の回答を挙げている場合もある。

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

- ・ 毎日雨が降る {から/ので}、洗濯物が乾かない。(1-1-1)

(2) 行為の理由

- ・ 体調が悪い {から/ので}、仕事を休むことにした。(1-2-1)

(3) 判断の根拠

- ・ 星が出ている {から/ので}、明日もいい天気になるだろう。(1-3-1a)

(4) 発言・態度の根拠

- ・ 危ない {から/ので}、この川では遊ぶな。(1-4-1)

(5) 理由を表さない用法

- ・ すぐに戻ってくる {から/ので}、ここで待っていてくれ。(1-5-1)

【2】述語用法

- ・ A「気分が悪い。」 B「あんなにたくさん飲むからだよ。」(1-6-1)

【3】文末用法

(1)倒置

- ・ ここでちょっと待っていて。すぐにもどって来るから。(1-8-1-1)

(2)終助詞的用法

- ・ あとで、もう一度電話するから。(1-8-2-1)

【4】接続詞用法

- ・ 最近毎日雨が降る。だから洗濯物が乾かない。(3-1-1)

【方言文献資料】

談話資料、講座、方言辞典類から、地点ごとに用例をあげて記述する。以下の文献については、文献名の下線を付した部分のみを掲載する。

- ・ 日本放送協会編（1959-1972）『全国方言資料（全11巻）』日本放送出版協会
- ・ 国立国語研究所編（1978-1987）『方言談話資料（全10巻）』秀英出版
- ・ 国立国語研究所編（2001-2008）『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成（全20巻）』
- ・ 飯豊毅一ほか編（1982-1986）『講座方言学（全10巻）』国書刊行会

上記以外の文献については、本文中では資料 01、02…とし、末尾の〔方言文献資料目録〕に文献情報を記載する。

なお、方言文献資料から引用した用例は、以下のように改変を加えた場合がある。

- ・ 語形の繰り返し、相づち、フィラー（言いよどみ・言い間違い）は、基本的に削除する。
- ・ 句点の増減と、スペース記号による区切りを加えた場合がある。
- ・ 原文の表記が漢字仮名混じり文であるものについては、ルビ（や音声資料がある場合は項目執筆者の聞き取り）に基づき、発音に即したカタカナ表記にあらためた場合がある。
- ・ IPA または音韻記号で表記されている方言文献資料の引用に際し、共通調査報告で採用したカナ表記法（各報告者ごとに設定）に従って置き換えた項目がある。
- ・ 音声のある方言文献資料については、各項目執筆者が聞き取りをして、文字化をあらためた場合がある。

また、方言文献資料から引用した用例には共通語訳を付した。原文に訳がない場合は項目執筆担当者が訳出し、原文に訳がある場合はそれを参照しつつ、改変した場合もある（逐語訳的で不自然な場合など）。

【＊『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域】

『日本方言大辞典』に収録されている関連形式とその使用地域の情報を掲載する（古典の例をもとに挙げられている地点は削る）。当該の形式が『日本方言大辞典』に収録

されていない場合はこの項はない。変異形の配列は、本編の見出し語（代表形・変異形）の配列順に準じる。

【参考文献】

記述の参考にした文献をあげる。方言文献資料のうち、資料 01、02…としてあげたものは、〔方言文献資料目録〕として記載する。

2. 共通調査の概要

- ・ 青森県東津軽方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）
 [話者] 生年：1946 年 性別：女性 生育地：青森県東津軽郡奥内村（現・青森市）
 [調査時期] 2008 年 2～3 月
 [調査報告者] 竹田晃子
- ・ 青森県八戸市方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）
 [話者] 生年：1986 年 性別：女性 生育地：青森県八戸市
 [調査時期] 2007 年 1～2 月
 [調査報告者] 日高水穂
- ・ 秋田県大館市方言調査
 [話者] 生年：1950 年 性別：女性 生育地：秋田県大館市釈迦内（大館市比内町
 独鈷在住）
 [調査時期] 2007 年 3 月
 [調査報告者] 日高水穂・伊藤美樹子
- ・ 秋田県湯沢市方言調査
 [話者] 生年：1957 年 性別：女性 生育地：秋田県湯沢市雄勝町（湯沢市角間在
 住）
 [調査時期] 2006 年 10 月
 [調査報告者] 日高水穂
- ・ 山形県山形市方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）
 [話者] 生年：1942 年生 性別：男性 生育地：山形県山形市八日町
 [調査時期] 2006 年 11 月
 [調査報告者] 竹田晃子
- ・ 山梨県早川町奈良田方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

[話者] 生年：1929 年生 性別：女性 生育地：山梨県早川町奈良田

[調査時期] 2007 年

[調査報告者] 吉田雅子

・富山県富山市方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

[話者] 生年：1922 年 性別：男性 生育地：富山市北新町（富山市東田地方町在住）

[調査時期] 2002・2004～2008 年

[調査報告者] 小西いずみ

・富山県立山町方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

[話者] 生年：1924 年 性別：男性 生育地：富山県立山町

[調査時期] 2008 年

[調査報告者] 小西いずみ

・岐阜県岐阜市方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

[話者] 生年：1965 年 性別：男性 生育地：岐阜県岐阜市

[調査時期] 2006 年

[調査報告者] 山田敏弘

・京都府京都市方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

[話者] 生年：1961 年 性別：女性 生育地：京都府京都市北区紫野

[調査時期] 2006 年 11 月、2008 年 2 月

[調査報告者] 舩木礼子

・大阪府摂津方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

[話者] 生年：1974 年 性別：女性 生育地：大阪府豊能町

[調査時期] 2009 年

[調査報告者] 高木千恵

・広島県三次市方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

[話者] 生年：1942 年 性別：女性 生育地：広島県双三郡三和町（現・三次市）

[調査時期] 2007 年 2 月

[調査報告者] 日高水穂

・沖縄県那覇市首里方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

[話者] 生年：1932 年 性別：男性 生育地：沖縄県那覇市首里

〔調査時期〕 2006 年 11-12 月、2007 年 12 月、2008 年 1 月

〔調査報告者〕 仲原穰

- ・ 沖縄県宮古島市平良字下里方言調査（⇒《要地方言共通調査報告》）

〔話者〕 生年：1947 年 性別：女性 生育地：宮古島市平良字下里

〔調査時期〕 2007 年 1 月、2008 年 1 月

〔調査報告者〕 中本謙

3. 方言文献資料

〔全般〕

国立国語研究所（1989-2006）『方言文法全国地図（全 6 集）』国立印刷局

日本放送協会編（1959-1972）『全国方言資料（全 11 巻）』日本放送出版協会

国立国語研究所編（1978-1987）『方言談話資料（全 10 巻）』秀英出版

国立国語研究所編（2001-2008）『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば
集成（全 20 巻）』

飯豊毅一ほか編（1982-1986）『講座方言学（全 10 巻）』国書刊行会

徳川宗賢監修・尚学図書編（1989）『日本方言大辞典（全 3 巻）』小学館

※個別項目ごとに参照した資料は、各項目の稿末に〔方言文献資料目録〕として記載した。